

### 【具体的施策 No.45】

取組み	国連環境計画（UNEP）国連環境技術センター（IETC）への協力・支援を推進します
内容	<p>UNEP-IETCは、廃棄物管理を中心に、開発途上国における環境上適正な技術に関する各種活動を実施する大阪で唯一の国連機関です。</p> <p>大阪市は、平成2年に「国際花と緑の博覧会」を開催し、そのテーマである「自然と人間との共生」の精神を引き継ぐレガシーとして、地球規模の環境問題に関する国際機関であるUNEP-IETCを花博記念公園鶴見緑地に誘致し、これまでUNEP-IETCと連携して、環境分野における国際貢献を推進してきました。</p> <p>今後も、UNEP-IETCとの連携をさらに強化して、開発途上国の環境問題の解決に取り組み、「自然と人間との共生」の実現をめざしていきます。</p>
関係所属等	環境局

### 【具体的施策 No.46】

取組み	国際的な機関に参加し、生物多様性保全、希少動物の保護などの取組みを推進しよう
内容	<p>国際的な地球温暖化対策や環境保全活動へ参加や情報発信するなど、生物多様性保全に取り組みます。</p> <p>また、国際自然保護連合（IUCN）の種の保存委員会（SSC）や世界動物園水族館協会（WAZA）に参加し、生物多様性保全、種の保存など各種保全プログラムを推進します。</p>
関係所属等	環境局、天王寺動物園
関係先	大阪市立大学

#### （コラム 28） 大阪市立大学による熱帯林での調査

大阪市立大学の植物機能生態学研究室では、スミソニアン熱帯林研究センター（CTFS）が中心となって世界 24 カ国 63 カ所の森林で実施している国際ネットワーク研究「CTFS-Forest Global Earth Observatory」に参画し、1990 年からボルネオ島の熱帯林で、熱帯林の変化を追跡調査しています。調査の結果、狩猟などにより急速に動物が減ってしまった森では、種子や実生が食べられないため、樹木の稚樹の数が増える一方で、多様性が下がってしまう恐れがあることを明らかにしました。これは、動物により種子が散布される樹木では、散布者がいなくなったために稚樹が集まって分布するようになったことが原因です。同じ種が集まると病気や虫害のリスク上がるため、将来、こうした種の個体数は減ってしまう危険性があります。動物の喪失が熱帯林の多様性に与える影響を具体的に示したものです。



**【具体的施策 No.47】**

<b>取組み</b>	<b>水・環境技術の海外展開を推進します</b>
<b>内 容</b>	<p>(公社)関西経済連合会、大阪商工会議所などとともに「大阪 水・環境ソリューション機構 (OWESA)」を設立し、上水道、下水道、廃棄物処理など水・環境分野において、官民連携による海外展開の取組みを進めています。これまで、ベトナムやミャンマーなどにおいて、水・環境に関する調査・実証事業などを実施しています。</p> <p>今後も引き続き、将来の事業化などに向けた取組みを進めます。</p>
<b>関係所属等</b>	<b>環境局、建設局、水道局</b>

## 第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて

「生物多様性の恵みを感じるまち」を実現していくためには、市民、民間事業者、環境N G O / N P O、研究機関・研究者、行政などが生物多様性を意識した上で、様々な取組みを推進していくことが重要です。

大阪市内では、これまでも、各主体が生物多様性に関連する独自の取組みを進めているとともに、それぞれが知恵を出し合いながら、各主体間で緩やかなつながりを形成してきました。今後、大阪市生物多様性戦略の策定を契機として、生物多様性に関連する様々な主体が集い、情報共有を行い、つながりを拡大・強化していくため、花博記念公園鶴見緑地にある環境活動推進施設(愛称「なにわE C Oスクエア」)や既存のネットワークの仕組みも活用しながら、新たな連携・協働の仕組みを創設し、市民をはじめ様々な主体と連携、協働するとともに、より多くの人々に生物多様性を身近に感じてもらえるよう、各主体が行う取組みの情報発信を積極的に行っていきます。

さらに、教育の場を積極的に活用し、将来を担う子どもたちへの普及啓発の強化に取り組み、庁内においては、「大阪市地球温暖化対策推進本部」の「区域施策編推進プロジェクトチーム」及び「事務事業編推進プロジェクトチーム」、並びにその下に設置した「生物多様性保全推進ワーキンググループ」を活用し、各部局が連携しながら大阪市生物多様性戦略を推進していきます。

大阪市生物多様性戦略の推進に向けては、P D C Aサイクルの手法を重視し、目標の達成状況や取組みの状況について新たな連携・協働の仕組みを活用しながら毎年度点検を行います。点検結果については、毎年度、大阪市環境審議会に報告を行うとともにホームページで公表します。

また、生物多様性のモニタリング・評価及び本戦略の進捗管理の手法や、各主体との連携・協働の仕組みのバージョンアップなどについて検討を行い、次期戦略に反映していきます。



環境活動推進施設(愛称:なにわE C Oスクエア)

## なにわE C Oスクエアを拠点とした新たな連携・協働の仕組み 概念図

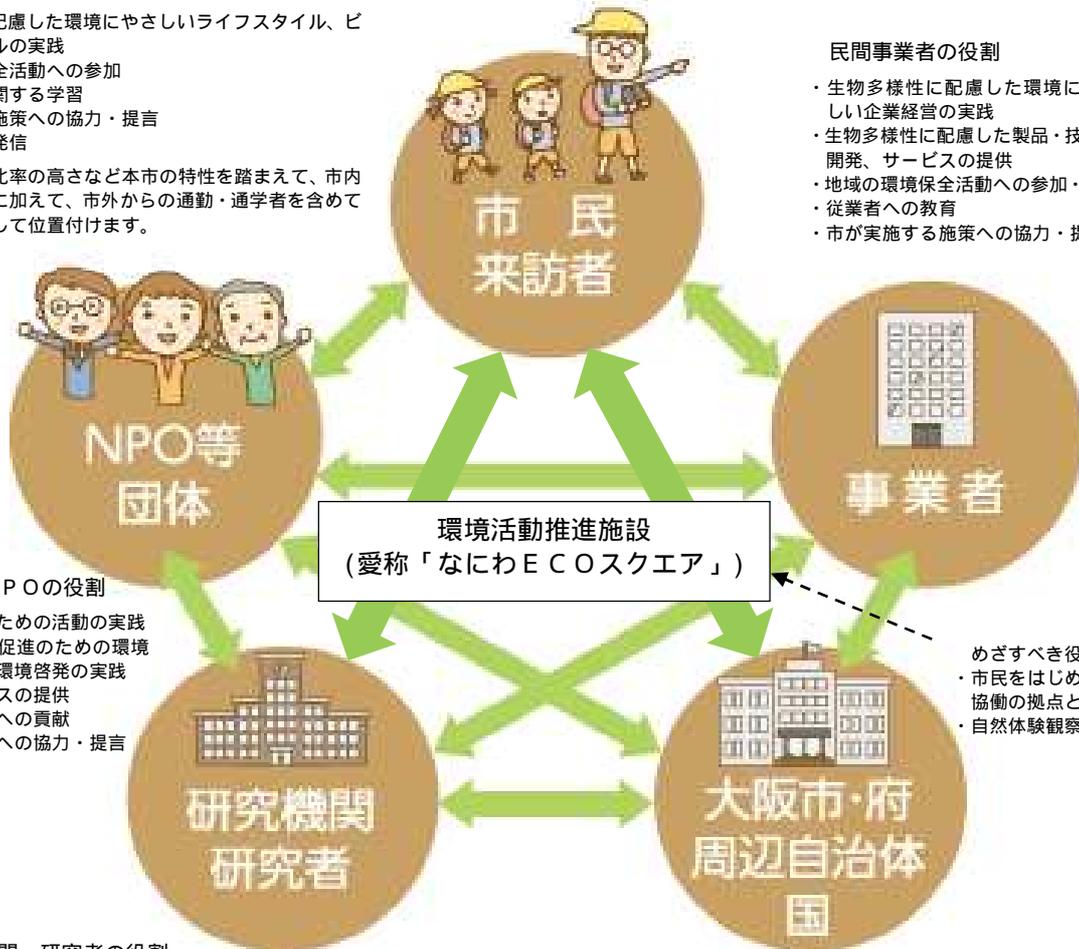
大阪で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪市を訪れる人の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルの実践
- ・地域の環境保全活動への参加
- ・生物多様性に関する学習
- ・市が実施する施策への協力・提言
- ・大阪市の魅力発信

昼夜間人口比率の高さなど本市の特性を踏まえて、市内に暮らす人に加えて、市外からの通勤・通学者を含めて「市民」として位置付けます。

民間事業者の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしい企業経営の実践
- ・生物多様性に配慮した製品・技術の開発、サービスの提供
- ・地域の環境保全活動への参加・協力
- ・従業員への教育
- ・市が実施する施策への協力・提言



環境NGO / NPOの役割

- ・地域の環境保全のための活動の実践
- ・市民などへの行動促進のための環境教育・環境学習や環境啓発の実践
- ・多様な社会サービスの提供
- ・地域社会の活性化への貢献
- ・市が実施する施策への協力・提言

研究機関・研究者の役割

- ・未解明現象の解明
- ・生物多様性や生態系サービスが有する価値の評価
- ・研究成果の社会への還元
- ・科学的知見からの政策などへの提言
- ・生物多様性に関する研究開発や技術協力などへの貢献
- ・次代を担う研究者や技術者の養成

行政・教育機関の役割

- ・市民・事業者に率先した取組みの実践
- ・市民・事業者などの取組みへの支援
- ・学校園における環境教育
- ・環境に関するわかりやすい情報の発信
- ・市民などが環境について学習できる場・機会の提供
- ・各主体の行動促進のための協力・連携
- ・環境保全施策の総合的な展開

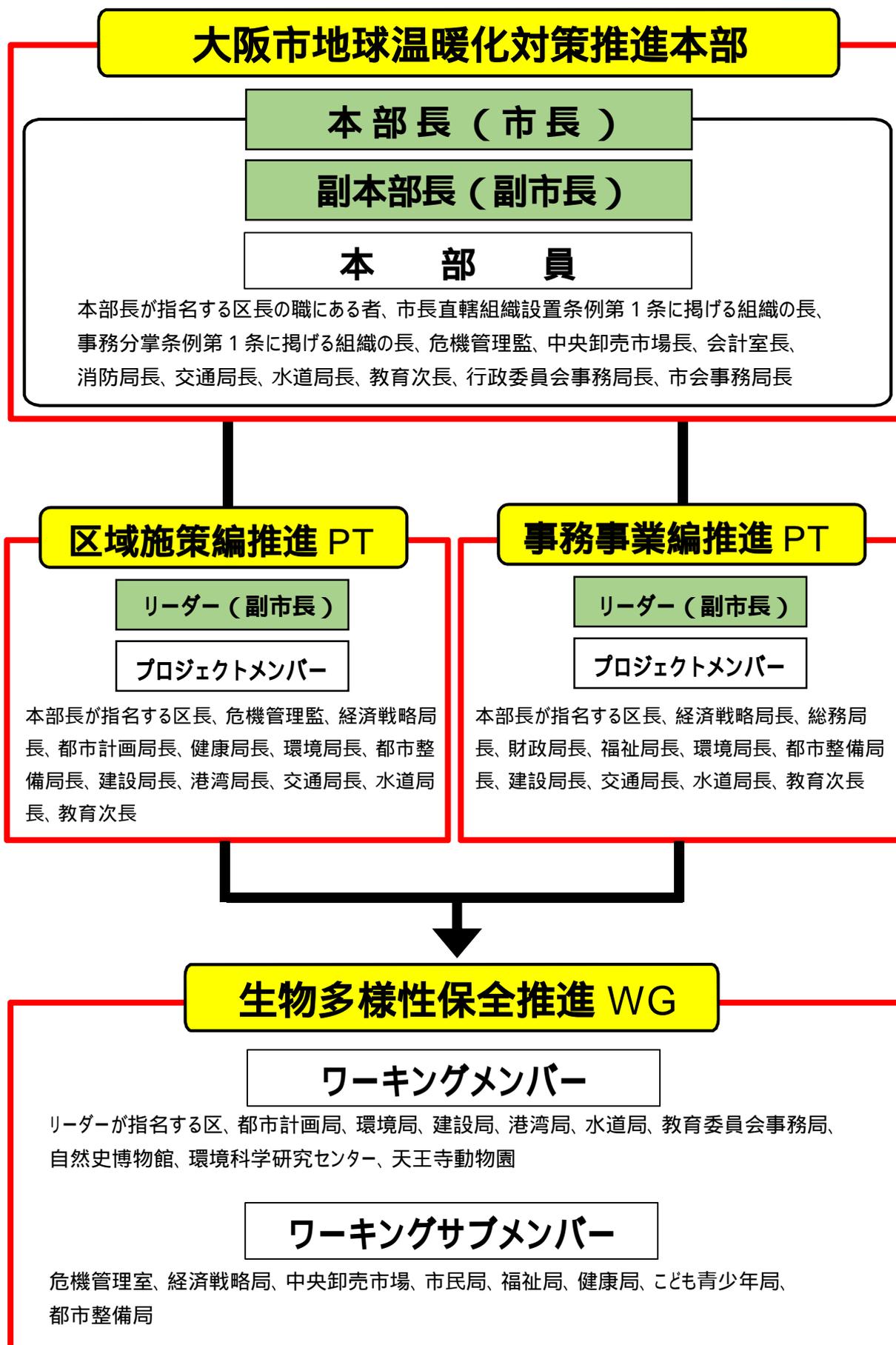
めざすべき役割

- ・市民をはじめ様々な主体との連携、協働の拠点として活用
- ・自然体験観察園での体験学習

多様な  
パートナーシップ  
により実現

### 大阪で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪市を訪れる人が 生物多様性の恵みを感じるまちを実現

- ・私たちの生活に不可欠な食べ物や衣類、水など、自然や生き物の恵みを継続して得ることができます。
- ・事業に不可欠な資源や環境を持続的に確保し、事業活動を安定的に継続することができます。
- ・自然や生き物に触れ合うことで心の豊かさを得ることができます。
- ・洪水の防止や気候の緩和、CO<sub>2</sub>の吸収など、自然のおかげで環境のバランスが保たれます。



## 資料編

### 1．策定経過

( 1 ) 大阪市生物多様性戦略の策定経過

( 2 ) 大阪市環境審議会の委員名簿

( 3 ) 大阪市環境審議会生物多様性部会 委員名簿

### 2．大阪市生物多様性戦略の策定に向けたシンポジウム

### 3．各種イベントでの情報発信

( 1 ) 天王寺動物園で講演「生物多様性と絶滅危惧動物を学ぶ」

( 2 ) E C O 縁日 2017

( 3 ) 環境ふれあい広場 in 東住吉

( 4 ) 気候変動講演会 2017

( 5 ) エネマネハウス 2017

### 4．大阪市内の生物相

( 1 ) 大阪市内における保護上注目すべき生き物

( 2 ) 特定外来生物

### 5．大阪市内の生物多様性関連施設など 一覧

### 6．用語集

# 1 . 策定経過

## ( 1 ) 大阪市生物多様性戦略の策定経過

年 月 日	項 目	内 容
2016 年 12 月 16 日	第 32 回大阪市環境審議会	・大阪市における生物多様性地域戦略のあり方について（諮問）
2017 年 6 月 15 日	大阪市地球温暖化対策推進本部 第 1 回生物多様性保全推進ワーキンググループ会議	・戦略策定のスケジュールについて ・戦略の概要について ・（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）について
6 月 23 日	大阪市環境審議会 第 1 回生物多様性部会	・戦略策定のスケジュールについて ・戦略の概要について ・（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）について
9 月 8 日	大阪市地球温暖化対策推進本部 第 2 回生物多様性保全推進ワーキンググループ会議	・（仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕について
9 月 26 日	大阪市地球温暖化対策推進本部 区域施策編及び事務事業編推進プロジェクトチーム合同会議	・大阪市生物多様性戦略（骨子）について
9 月 29 日	大阪市環境審議会 第 2 回生物多様性部会	・環境審議会への中間報告の内容について ・（仮称）大阪市生物多様性戦略〔中間報告（案）〕について ・今後のスケジュールについて
10 月 23 日	第 33 回大阪市環境審議会	・（仮称）大阪市生物多様性戦略策定に関する審議状況について（中間報告）
11 月 19 日	大阪市生物多様性戦略の策定に向けたシンポジウム	・基調講演「なにわの賑わい、生命の賑わい」 ～つながりでめざす生物多様性～ ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕について ・パネルディスカッション ほか ( P79～83 参照 )
12 月 19 日	大阪市地球温暖化対策推進本部 第 3 回生物多様性保全推進ワーキンググループ会議	・（仮称）大阪市生物多様性戦略策定に関する部会案について
12 月 21 日	大阪市環境審議会 第 3 回生物多様性部会	・大阪市生物多様性戦略（部会案）の策定について
2018 年 1 月 22 日	第 34 回大阪市環境審議会	・大阪市における生物多様性地域戦略について
1 月 29 日	大阪市環境審議会	・大阪市における生物多様性地域戦略のあり方について（答申）
2 月 8 日	大阪市地球温暖化対策推進本部 区域施策編及び事務事業編推進プロジェクトチーム合同会議	・大阪市生物多様性戦略（案）について
2 月 15 日～ 3 月 14 日	パブリック・コメント	・大阪市生物多様性戦略（案）について

( 2 ) 大阪市環境審議会 委員名簿

( 敬称略 50 音順 )

[	赤木 克己	日本労働組合総連合会大阪府連合会	(2017年10月31日まで)
	山本 浩司	日本労働組合総連合会大阪府連合会	(2017年12月13日から)
[	有本 純子	大阪市会環境対策特別委員長	(2017年8月23日まで)
	西崎 照明	大阪市会環境対策特別委員長	(2017年8月24日から)
[	飯田 哲也	公 募 委 員	(2017年10月31日まで)
	岡 秀郎	公 募 委 員	(2017年11月1日から)
	市川 陽一	龍谷大学理工学部環境リユ-ション工学科教授	
[	宇田 吉明	大 阪 環 境 ネ ッ ト	(2017年10月31日まで)
	水藻 英子	大 阪 環 境 ネ ッ ト	(2017年11月1日から)
	上南木 昭春	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	(2017年10月31日まで会長代行) (2018年1月22日から会長)
	神田 佑亮	呉工業高等専門学校環境都市工学科教授	
[	島田 まり	大阪市会民生保健委員長	(2017年8月23日まで)
	山本 長助	大阪市会民生保健委員長	(2017年8月24日から)
	下田 吉之	大阪大学大学院工学研究科教授	(2018年2月6日から会長代行)
	高村 ゆかり	名古屋大学大学院環境学研究科教授	
[	武田 智津枝	公 募 委 員	(2017年10月31日まで)
	松田 清司	公 募 委 員	(2017年11月1日から)
	中野 加都子	甲南女子大学人間科学部生活環境学科教授	
	中野 隆夫	公益社団法人大阪市工業会連合会	
[	中野 亮一	大 阪 商 工 会 議 所	(2017年10月15日まで)
	楠本 浩司	大 阪 商 工 会 議 所	(2017年10月16日から)
	西岡 真稔	大阪市立大学大学院工学研究科教授	
	花田 真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授	
	藤田 香	近畿大学総合社会学部教授	
[	槇村 久子	関西大学社会安全学部客員教授	(2017年10月31日まで会長)
	深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂准教授	(2017年11月1日から)
	矢野 隆子	一般社団法人大阪府医師会	
	和田 重太	大 阪 弁 護 士 会	

( 3 ) 大阪市環境審議会生物多様性部会 委員名簿

( 敬称略 50音順 部会長 )

上南木 昭春	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
佐々木 正顕	積水ハウス株式会社環境推進部部長
花田 真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
平井 規央	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂准教授
宮川 五十雄	生物多様性かんさい代表世話人 / 特定非営利活動法人森の都研究所 代表理事

## 2. 大阪市生物多様性戦略の策定に向けたシンポジウム

市民の意見を取り入れた戦略を策定するため、大阪自然史フェスティバル2017においてシンポジウムを開催し、大阪市環境審議会生物多様性部会部会長による基調講演、大阪市環境局による本戦略策定における中間報告を行い、その後パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、パネリストと会場参加者との間で意見交換を行うとともに、パネルディスカッション終了後も、引き続き大阪市環境局と会場参加者との間で意見交換を行いました。

【日時】2017年11月19日(日)10時~11時45分

【場所】大阪市立自然史博物館本館講堂

【テーマ】「Do you know 生物多様性？」~大阪市生物多様性戦略の策定に向けて~

【参加者数】130名程度

【主催など】主催：大阪市環境局

協力：大阪市立自然史博物館、認定NPO法人大阪自然史センター

### <プログラム>

10時00分 開催あいさつ 堀井 久司(大阪市環境局環境施策部長)

10時05分 基調講演「なにわの賑わい、生命のにぎわい」

~つながりでめざす生物多様性~

花田 眞理子(大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授)

10時30分 大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕について

岡本 充史(大阪市環境局環境施策部環境施策課長)

10時45分 パネルディスカッション(会場参加者との意見交換含む)

コーディネーター

佐久間 大輔(大阪市自然史博物館 学芸課長代理)

パネリスト

花田 眞理子(大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授)

清野 未恵子(神戸大学大学院人間発達環境学研究科特命助教)

佐々木 正顕(積水ハウス㈱ 環境推進部部長)

梅原 徹(認定NPO法人大阪自然史センター理事長)

堀井 久司(大阪市環境局環境施策部長)

11時45分 閉会・アンケート

(閉会后~12時30分 引き続き大阪市環境局と会場参加者との意見交換)



### < パネルディスカッション概要 >

#### 【パネリスト】

- ・ 自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気づきを促す取組みと、環境教育・啓発が大阪市として一番やるべきことであり、やってほしいと思う。
- ・ 大阪は市民やNGOなどのつながりが非常に強く、これは大阪の強みである。戦略の策定にはパートナーシップが重要であり、パートナーシップをつくって取組みを進めるためには、コミュニケーションが重要である。相手にどうすればわかりやすく伝えられるかを参加者の皆さんも一緒に考えてほしい。
- ・ 大阪市内で完結するのではなく、都会の大阪と周辺地域の農村をつなげて生物多様性を考えてほしい。
- ・ 市民が普段の生活の中で、生物多様性に関するものを目にすることができるようになるといいと思った。
- ・ 行政は教育現場である学校などを通じて、次の世代の人たちに生物多様性の重要性を伝えていかなければならないし、地域の方にも感じてもらわないといけないと思う。
- ・ 生物多様性の取組みは、誰かが一つの方向性を決めるものではないと思っていて、市民や民間事業者など様々な主体が触発し合って取組みを進めていくことが大事だと考えている。行政の主体間においても対抗意識を持って取り組むことや、協力して取り組むことになるかもしれないと思う。

#### 【会場参加者】

- ・ 自然を守りたいがどうすればいいかわからず、行政の助けが必要だと思う。また、ボランティアは高齢化により少なくなっており、若い世代はなかなか参加しない。
- ・ 広報の仕方に問題があると思う。ボランティアで生き物調査に取り組んでいるが、参加者が集まらない。なにわエコスタイルというホームページに募集案内を掲載しているが、そういう言葉を知っている人が検索するとは思えない。

- ・水道記念館や野鳥園臨港緑地がこの戦略に掲げられていないことは、生物多様性の戦略の観点からすると劣化していると思う。もとに戻すようにしてほしい。
- ・他都市の戦略を見ると、外来種の侵入を防ごうというようなことが書かれているのが一般的だが、大阪市の戦略にはほとんど書かれていなかったもので、そのようなことにも取り組んでほしい。

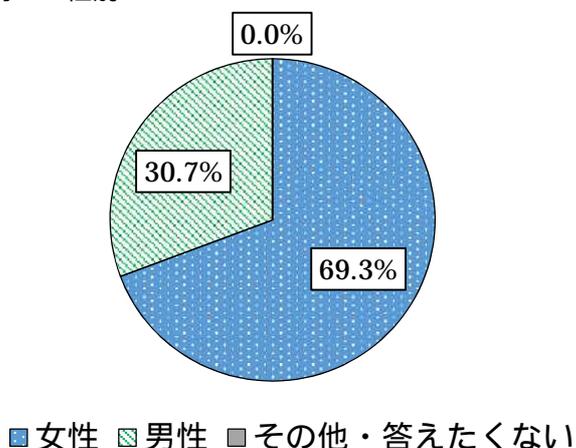
< パネルディスカッション終了後の意見交換概要 >

【会場参加者】

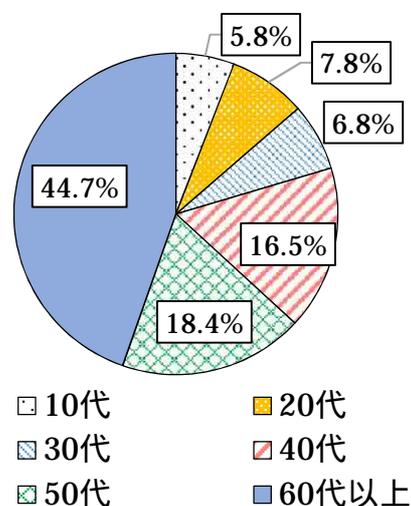
- ・大阪市生物多様性戦略については、市役所の各部局が意識を持たなければいけないと思うので、意識付ける文言を入れるべきである。
- ・教員に対しては法定研修が多く、生き物や環境に関する研修がない。環境局が教育に働きかけて仕組みをつくるほうが良いと思う。
- ・大阪市生物多様性戦略の表紙にある写真について、オオクチバスは外来種であるため、ほかの写真に変えるほうが良い。
- ・他都市の事例であるが、小さな開発では条例などで規制できないため、お願いにとどまっている。行政指導や規制に関する内容を大阪市生物多様性戦略の中に記載するべきである。
- ・小学校には学習園という畑があるが、都心部では狭く、校内の樹木もわずかである。改修する際には、学習園の拡大や校内の樹木を増やすことなどについて教育委員会に働きかけてほしい。
- ・上町台地は大阪市にとって貴重な緑であるため、保全や拡大について大阪市生物多様性戦略に位置付けるべきである。

< アンケート結果（回答総数：103件） >

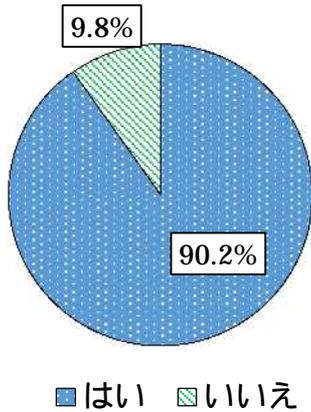
問1．性別



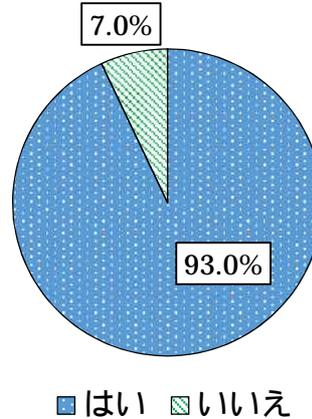
問2．年齢層



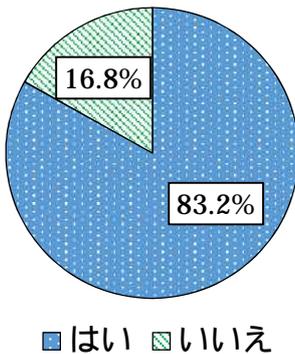
問3 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



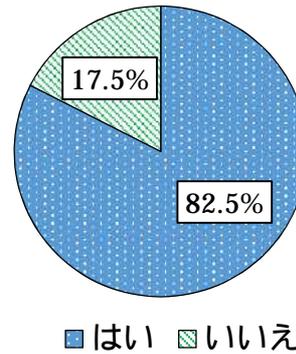
問4 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



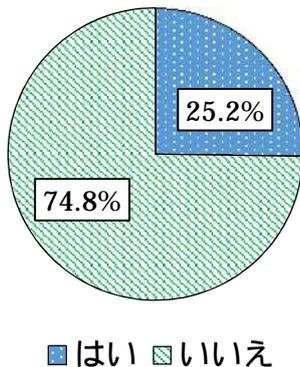
問5 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



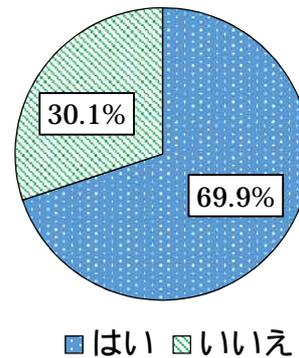
問6 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



問7 . 緑化している屋上で、大阪では絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



問8 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



問9 . その他意見 (概要)

- ・生物多様性には人と人とのコミュニケーションが大切だとわかった。
- ・都市公園はつくられた自然だが、管理の仕方でも多様な自然環境や生物多様性を保てると思う。

- ・生物多様性を多くの人に知ってもらうことが大切だと思う。自分自身ブログを作っており、生物多様性に対する興味を持ってもらうことからスタートしたい。SNSの活用は有効だと思う。
- ・SNSにおいて検索しやすい単語を入れるほか、最近の若者はかわいいものが好きなので、生き物のかわいさと共に、生き物が生息する自然が破壊されていることをわかりやすく伝えられる絵本などを作成したら良いのではないかと思う。
- ・若い人に伝える必要があるという割に、講演会自体がつまらない。講演内容や話は面白いのにもったいない。パネルディスカッションでは、有識者だけで若者は参加しづらかった。
- ・生物多様性について全てを知っている人は少ない。特にこのようなシンポジウムで何を伝えるか、何をすべきかをしっかり広めるべきだと感じた。
- ・生物多様性が高い自然環境を体験できる場所が都市近郊にほとんど存在しなくなったと感じている。都市近郊では特定の外来種が繁茂し、そこに生息する動物も限られたものしか見られないため、生物多様性の高さを体験できる自然環境の創生・再生のモデル地区が必要だと思う。
- ・日本人は動物の生息域を人間の生活区域へと変えていき、それによりそこに生息していた動物を害獣や害鳥とって駆除している。外国では共生を考えているため、日本でも上手く共生する方法を考えてほしい。
- ・シンポジウムの題目が「大阪市生物多様性戦略の策定に向けて」だけでは一般の人には何を発表するのかわからず、行ってみようと思わないのではないかと思う。興味を持ってもらえる題目を考えるべきだと思う。
- ・このような講演をもっと時間に余裕を持って、多く開催してほしい。
- ・生物多様性地域戦略の策定を府内の市町村に制定するように働きかけてほしい。
- ・大阪市生物多様性戦略において野鳥園臨港緑地や淀川の淡水魚の施設についても考えてほしい。
- ・「みんなが自然を楽しみながら生活できる世の中づくり」に取り組んでほしい。
- ・生物多様性こそ府市連携あるいは関西広域で考えるべきではないか。
- ・大阪らしい要素がたくさんあり、良い戦略だと感じた。完成を楽しみにしている。
- ・多様な意見が反映された、全国に誇ることができる持続的かつ実行可能な「大阪市生物多様性戦略」が策定されることを楽しみにしている。
- ・短絡的な「恵み」だけでなく、「つながり」の重要性を含めて、外来種対策への理解も生物多様性保全と関係することを明確に説明できるよう施策に活かしてほしい。
- ・行政はもっとしっかりすべきだ。縦割組織が改革されておらず、市としてもっとコミュニケーションをとってほしい。
- ・大阪市は生物多様性に関する活動に対してもっと予算をつけるべきではないか。また、教育委員会との関係で、子どもたちの教育で広げていくことができるのではないか。
- ・大阪市として環境局だけでなく全庁的に取り組んでほしい。